

# 施策評価調書

施策名	3-2-1	ごみ分別の推進	施策を取り巻く環境変化	平成18年度に策定したリサイクル総合計画に基づき、生ごみ、剪定枝、廃食用油、発泡スチロール、ペットボトルなど有効なリサイクルを進めごみの分別を推進してきましたが、年々可燃ごみの排出量に増加傾向が見られます。自治会に加入していない住民の増加もあり、ごみの分別に対する情報不足があります。可燃ごみの削減とリサイクル推進のため、プラスチック容器などのプラスチックの分別回収に取り組み自治体も増えてきています。 平成23年3月11日の東日本大震災により災害廃棄物が大量に発生し、受入、再生処理を実施しています。
		地域経営計画(後期計画) 該当ページ P. 44		
担当部課	住民生活部 環境課	担当 リーダー	環境担当	

## 1. 住民意識調査結果

21年度(10月実施)		25年度(※実施予定)		26年度(※実施予定)	
満足度	20.8% 第6位/全36項目(リサイクルの推進)	満足度	第 位/全 施策	満足度	第 位/全 施策
優先度	64.5% 第13位/全36項目(リサイクルの推進)	優先度	第 位/全 施策	優先度	第 位/全 施策

満足度:「満足である」、「どちらかと言えば満足である」を合計した割合から、「どちらかと言えば不満である」、「不満である」を合計した割合を差し引いたもの

優先度:「優先すべき」、「やや優先すべき」を合計した割合から、「あまり優先しなくてよい」、「優先しなくてよい」を合計した割合を差し引いたもの

## 2. 施策の目標

指標	基準値	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
指標1:リサイクル総合計画の見直し実施	H22年度時点での実績 未実施	計画 実績	実施 ↓ 未実施	実施			
指標2:町民1人1日当たりの可燃ごみ排出量(15%減):(g)	H21年度実績 333g	計画 実績	329g ↓ 356g	319g	303g	293g	283g
指標3:プラスチック分別回収の実施	H22年度時点での実績 未実施	計画 実績	準備 →	準備	拠点回収	拠点回収	全町回収
指標4:		計画 実績					
指標5:		計画 実績					
指標に関する特記事項	○指標2:町民1人1日当たりの可燃ごみ排出量は、家庭から排出される可燃ごみの排出量で、町内事業所からの可燃ごみは含まれません。						

進捗状況の区分 ↑:目標以上の成果があった →:目標どおりの成果があった ↓:目標に至らなかった △:遅延・未着手等 ×:見直し・廃止等

## 3. 施策に係る経費

事業費(傘下事務事業費計)の推移【単位:千円】 (※総事業費)	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	当初	114,267	113,284	113,638		
決算	107,572					

## 4. 施策傘下事務事業 ※別紙のとおり

## 5. 施策評価

後期計画における施策展開のビジョン		H25年度の狙い	
自己評価(部)	H23事後評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年度においては、先の東日本大震災で発生した災害廃棄物の再生処理を最優先課題として取り組んできました。</li> <li>大震災の影響もあり家庭から排出される燃やすごみや不燃ごみ等全般的に増加傾向にありました。燃えるごみは、年々増加傾向にあることから排出量を減らす新たな対策を取る時期にきています。</li> </ul>	<p>東日本大震災により発生した廃棄物再生処理を優先させたため、平成24年度までに実施できなかった事業を実施して行きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分別ごみの一つである生ごみは分別され全量堆肥として再利用しています。自分達で出した資源(生ごみ)が堆肥として再生され、その堆肥で作られて農産物等を、生ごみ指定袋購入者に対しプレゼントすることで、循環社会を実感してもらい生ごみの分別をさらに推進します。</li> <li>これまで、可燃ごみと出していたプラスチック類の分別回収に向けて拠点回収を開始します。拠点回収にあたっては住民の皆様の意見を聞き入れながら、段階を踏んで全町回収を目指して行きます。これらの狙いをおとして「ごみ」を「貴重な資源」と捕らえ再び循環させることで全町民が景観の美化役、地球温暖の抑止役、資源循環型社会の構築役として自然に担って行けるよう取組みます。</li> </ul>
	H25事前評価	<p>平成24年度に見直しを行った「リサイクル総合計画」に基づき、可燃ごみの減容化を進めていきます。これまで一般家庭から可燃ごみとして排出されていたプラスチックの分別回収に向けて、まずはエコハウスたかねざわを拠点とし拠点回収を実施していきます。拠点回収時のプラスチック分別回収として、出せる出せない物、出し方を住民皆様の意見を聞き入れながら、町としてのより良い廃プラ分別回収方法を構築します。</p>	
総合評価(町長)	総合評価	<p>3-1-1総合評価のとおり、環境基本計画の見直し時期及び次期地域経営計画の準備時期にあたることから、環境政策を再精査するタイミングであると判断する。ごみの排出量を不断に検証しつつ、プラスチックの分別回収を試行開始することのタイミングに合わせて、プラスチックのみならず、全てのごみの分別を、町民の皆さんにどう周知・啓発していくべきかを十分に検討されたい。</p>	<p>「発泡スチロール回収再資源化事業費」及び「プラスチック回収再資源化事業費」については、「条件付継続事業」とする。今後においては、半永久的に拠点回収ということはないという前提で、将来的に「撤退すべきか」、「ステーション回収に発展させるべきか」等の長期的なビジョンを、民間の動向等を踏まえて提示されたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>併せて「プラスチック回収再資源化事業費」については、「予算要求における積算再精査」という意味合いで、「条件付継続事業」とする。収集運搬費等と十分に見合いをとった上で、必要な消耗品費を計上されたい。</li> <li>その他の施策傘下事務事業については、「継続事業」とする。</li> <li>団体運営費補助にあつては、引き続き団体との協議を密にし、適切な役割分担、良好な協力関係を構築されたい。</li> </ul>
	施策傘下事務事業に係る個別指摘事項		